



日本赤十字社 和歌山医療センター

Japanese Red Cross Society

医療連携だより

冬号

No. 84



和歌山市小松原通四丁目20番地
TEL : 0120-965-582 (医療連携課)
FAX : 0120-937-510 (医療連携課)

(発行責任者)
管理局長 内田 一彦
e-mail : renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



新年のご挨拶

院長 山下 幸孝



明けましておめでとうございます。

武漢で新型コロナウイルスが報告された後、これほどの期間この問題に悩まされ続けるとは誰も想像しなかったでしょう。丸3年になります。産業の発展と共に自然を汚染破壊し続けた文明人に対して、その対価として我々の子孫に地球温暖化をはじめとする多くの自然からの報復が起こると予測される中、自然破壊を続けている我々日本人にも当然の報いが与えられているような気がします。このような現状の中、ロシアのウクライナ侵攻と言う想像もされなかった事も起こり、世界の秩序と安全さえも損なわれようとしています。

暗い話しかない中、2022年は終わり、2023年を迎えました。地球規模としては、コロナの呪縛、温暖化対策の後退、エネルギー、飢餓貧困等、多くの問題は当面解決できそうにありません。

我が国の現状としては賃金低迷、円安、国債の膨大化、軍事費捻出の為の増税、少子高齢化による労働力の低下等、抜本的な改革と意識の変革が必要とされるものばかりが並んでいます。

何か明るいニュースが欲しいところです。

人は満ち足りた生活の中では現状に甘んじ、それを維持することのみに専念し、どうしても保守的になりがちのようです。

それゆえ、今の様な窮地に追い込まれた時こそ、自ら明るい未来を切り開いていくための創意工夫と強い意志を持つことが可能となるのではないのでしょうか。

医療人としての我々が出来ることは限られています。まずは地域医療を守る事。住民の健康を守る事。その為には、診療内容の担保された、安心して受診できる医療体制の充実をはかること。

かかりつけ医機能報告制度の創設と医療機能情報提供制度の拡充が取り沙汰されていますが、基本は医療施設間の強い組織立った連携により、チームとして地域の医療が守られ、その結果、住民が適切な医療を受けやすくなるかどうか大きなポイントだと思われます。現状の自然災害、人災等、数多くある外圧に対しては既得権や利害は度外視して、力を合わせて戦っていく地域医療提供体制構築の必要性を強く感じています。

今年もさらに強い連携協力体制の維持発展を今まで以上に模索したいと考えております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に、先生方におかれましては良き年になりますよう祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



当センターの 緩和ケアについて

緩和ケアセンター長兼緩和ケア内科部長 一宮正人

あけましておめでとうございます。

平素は緩和ケアセンターの運営にご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

COVID-19の出現以来、緩和ケアの在り方にも大きな変化がありました。全人的苦痛の緩和という点では単に症状緩和に留まらず、感染対策のために面会制限のある入院生活を念頭に、残された時間をいかに過ごすかという問題が再認識されました。

当センターでは、がんの苦痛症状に対する緩和ケアを緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟が提供し、連携を緩和ケアセンターが調整しています。それらの役割は他の施設と大きな違いはありませんが、当センターならではの特色もありますので、今回紹介させていただきます。

緩和ケアチームについて

一般病棟に入院中で病棟看護師によるスクリーニングでがんによる苦痛症状があると判断された方は、本人と主治医の意向を確認したうえで多職種からなる緩和ケアチームが介入して、苦痛症状に対してオピオイドや鎮痛補助薬を始めとした提案を行い、場合によりチーム自ら処方を行います。積極的治療中の方も、BSCの方もおられます。

介入していた方が退院される場合は主科とともに緩和ケア外来にも通院することをお勧めしています。一方、退院が難しい場合や退院までに時間が掛かる場合は緩和ケア病棟への転病棟を提案することもあります。

緩和ケア外来について

平日の午後（入棟面談は水・金の午後）に診療しています。入院中に緩和ケアチームが介入していた方が退院後に通院する場合のほか、入院歴がなくともがんで通院中の方は主治医からの紹介があれば診療しています。また他院にがん治療で通院中の方も紹介があれば診療が可能です。最近は早期からの緩和ケアの有用性が知られるようになったため、診断期や治療期からの紹介も増えていきます。これらの方も必要に応じて緩和ケア病棟に入院することがあります。

緩和ケアチーム、緩和ケア外来ともにアドバンス・ケア・プランニング（ACP）について助言を行うことがあります。がん薬物療法中に、もうこれ以上効果がないと判定され次のレジメンがない場合や、寝たきりまたはそれに近い状態になった

場合でも治療を続けた方が予後は良いという誤解は今でもあり、ACPがしっかりできていると無理な治療を続けずにBSCに移行しやすくなるからです。

緩和ケア病棟「ひなげし」について

緩和ケア病棟は全室個室の病棟で、「ひなげし」という愛称で呼ばれており、無料個室が16室、有料個室が4室あります。多職種によるがんの全人的苦痛の緩和を行っており、患者さんの入棟希望があれば面談による審査を行い、適応があれば入棟していただきます。多くは当センターでがん診療を受けている方ですが、最近は他医療機関からの紹介で入棟されることも増えてきました。

ホスピスのようなイメージを持たれるかもしれませんが、症状緩和のための急性期病棟ですので、入棟期間は概ね1か月までに限らせていただいております。症状に応じてその後の在宅療養や転院などについて相談します。症状が安定し、地域の先生方や医療関係者の皆様による訪問環境を整えたいうえで在宅療養に移行できる方も多くおられます。一定期間の在宅療養ののち再び入棟も可能です。また入院が長くなり病状がある程度安定していても在宅療養が難しい方については地域の入院施設にご協力をお願いしています。

以前はご家族の随時の面会や付き添いも可能でしたが、昨今のCOVID-19による影響は緩和ケア病棟も例外ではなく、令和4年12月時点での面会は平日14時から16時まで、ご家族に限り一人か二人、15分程度に制限させてもらっています。流行状況で変わることもあります。残された時間が限られている患者さんやご家族にとっては誠に心苦しいのですが、ご理解のほどよろしくご厚意申し上げます。このような状況ではご家族との時間を大切にするという意味もあり緩和ケア病棟と在宅療養を上手に使い分けて療養することをお勧めしています。

以上、がんに対する緩和ケアについて述べましたが、他にも症状緩和の必要な疾患は多く、まずは心不全チームとの定期的なカンファレンスを始めているところです。

地域の先生方や医療関係者の皆様にはご利用、ご協力いただき誠にありがとうございます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくご厚意申し上げます。



がんセンター通信 ⑧

(前立腺・尿路・男性生殖器がん・
後腹膜腫瘍ユニット；略称 前立腺ユニット)

泌尿器科主任部長

伊藤 哲之



医療連携いただいている地域の先生がたにおかれましては、数多くの患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございます。

泌尿器科に関連するがんの診療に関しては、5年ほど前から放射線診断科、病理診断科、放射線治療科と合同カンファレンスなどで密に連携をとって参りました。放射線診断科と協力して正確な病期診断を行い、病理診断科と協力してがんの悪性度を診断しています。がん患者さんにとって最適な治療を選択するために、質の高い診断がなくてはなりません。また、がんの治療においては、放射線治療は手術、薬物治療とともに重要な選択肢となっており、放射線治療科と協力してベストな治療方針を検討しています。2022年から泌尿器科と放射線治療科は治療の合同プロトコルを作成し運用しています。当ユニットが扱うがんの中では前立腺がんが最も頻度が高く（男性の生涯罹患率が10.8%）、前立腺がんの診断治療に関して、さらに詳しくご説明させていただきます。

限局性前立腺がんの局所診断はMRIがもっとも優れており、放射線診断科がMRIにて前立腺内の疑わしい病変の局在と悪性の可能性を診断し

ます。そのMRIにて疑わしい病変を、リアルタイムに観察が可能な超音波画像とコンピュータ上で融合して、泌尿器科が針生検を行います（2022年4月から保険適応）。病理診断科が針生検の病理結果として、がんの悪性度を5段階に分類します。それを利用してリスク分類を行い、放射線治療科と合同して作成した説明書を利用して、泌尿器科と放射線治療科からリスクに応じた治療方針の選択肢を説明します。放射線治療は放射線治療科で行い、手術・薬物治療・経過観察は泌尿器科で行っております。

現在では、がんセンターの前立腺・尿路・男性生殖器がん・後腹膜腫瘍ユニット（略称 前立腺ユニット）として、上記の診療科以外にも、希少がんや遺伝子診断に関しては腫瘍内科に、拡大手術に関しては外科にご協力いただき、多くの診療科と一緒に協力して診断治療する体制を整えております。今後は、がん患者さんのQOL（生活の質）の向上のために、緩和ケアなどの多職種チームとの協力をさらに進めていきたいと考えております。

今後とも、ご指導ご支援よろしくお願ひいたします。

令和4年度診療科別合同セミナー・講演会実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しています。開催時には、随時ご案内しますので是非ご参加ください。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数 (合計)
10月6日(木)	眼科	眼科診療における法的アドバイス ～認知症等の患者から「訴える」と言われたら～	WEB配信	36名
11月10日(木)	循環器内科	第2回 Cardiovascular Disease Summit WEBセミナー	WEB配信	35名
11月17日(木)	整形外科	令和4年度第2回大腿骨頭部・転子部骨折連携 パス合同カンファレンス	WEB配信	56名
11月24日(木)	消化器内科	消化器疾患懇話会（ハイブリッド）	夕陽のぼりホール和歌山	72名
12月1日(木)	呼吸器内科	喘息治療の最前線 in 和歌山	WEB配信	22名
12月2日(金)	循環器内科	心血管治療連携フォーラム（ハイブリッド）	フォルテワジマ	39名
12月15日(木)	呼吸器内科	COPD Communications	WEB配信	21名

就任のお知らせ

1月1日付

産婦人科 恩地 孝尚 (専攻医)
小児外科 金井 理紗 (医師)
救急科・集中治療部 瀧本 奈々 (専攻医)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願ひします。

退職のお知らせ

12月31日付

救急科・集中治療部 大瀧 玄徳 (専攻医)
産婦人科 平山 貴裕 (医師)
循環器内科 渡邊 大基 (医師)

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。

紹介初診患者診察担当医師表

2023年1月1日現在

診療科名	月	火	水	木	金
循環器内科	部長 豊福 守	副部長 田崎 淳一	伊勢田 高寛	辰島 正二郎	藤田 啓誠
	伊勢田 高寛	辻 修平	辻 修平	—	—
	—	《末梢血管外来》	—	—	—
消化器内科	院長 山下 幸孝	主任部長 上野山 義人	副部長 瀬田 剛史	部長 赤松 拓司	主任部長 上野山 義人
	部長 赤松 拓司	副部長 浦井 俊二	副部長 岩上 裕吉	副部長 浦井 俊二	副部長 中谷 泰樹
	副部長 瀬田 剛史	副部長 中谷 泰樹	森村 博樹	副部長 松本 久和	副部長 小西 隆文
	副部長 松本 久和	中野 省吾	下山 雅之	松山 和輝	荻野 真也
	枝川 剛也	筑後 英紀	外村 晃平	脇田 碧	寺下 友子
	埜 悠佑	—	—	北田 智也	森久 芳樹
糖尿病・内分泌内科	副院長 井上 元	副部長 廣島 知直	副院長 井上 元	副部長 廣島 知直	副部長 稲葉 秀文
血液内科	副部長 田中 康博	部長 直川 匡晴	副部長 岡 智子	副部長 田中 康博	田村 啓人
消化器外科	副部長 辰林 太一	副院長 宇山 志朗	副部長 一宮 正人	副院長 宇山 志朗	部長 安近 健太郎
	山田 真規	副部長 奥村 公一	副部長 横山 智至	部長 山下 好人	部長 伊東 大輔
	野間 淳之	青山 諒平	副部長 宮本 匠	副部長 川添 准矢	佐倉 悠介
※乳腺外科	副部長 鳥井 雅恵	—	部長 松谷 泰男	副部長 鳥井 雅恵	部長 松谷 泰男
小児外科	—	副部長 横山 智至	副部長 横山 智至	—	—
眼科	川島 祐	副部長 三木 敏耶	部長 荻野 顕	《交替制》	部長 荻野 顕
	川島 京子	—	《交替制》	—	—
耳鼻咽喉科	部長 三浦 誠	《交替制》	部長 三浦 誠	副部長 木村 俊哉	副部長 辻村 隆司
産婦人科	副部長 山西 優紀夫(第1・3・5)	副部長 豊福 彰(第1・3・5)	大西 佑実(第1・3・5)	副部長 坂田 晴美(第1・3・5)	部長 吉田 隆昭
	副部長 山村 省吾(第2・4)	日野 麻世(第2・4)	春日 康耶(第2・4)	副部長 横山 玲子(第2・4)	—
	副部長 濱畑 啓悟	副部長 深尾 大輔	副部長 原 茂登	副部長 濱畑 啓悟	部長 吉田 晃
小児科	副部長 杉峰 啓憲	坂部 匡彦	副部長 横山 宏司	副部長 杉峰 啓憲	副部長 横山 宏司
	—	—	—	—	坂部 匡彦
泌尿器科	部長 玉置 雅弘	主任部長 伊藤 哲之	—	部長 玉置 雅弘	主任部長 伊藤 哲之
	副部長 中嶋 正和	副部長 中嶋 正和	—	山田 祐也	山田 祐也
	太田 秀人	太田 秀人	—	高橋 俊文	碓 達也
腎臓内科	嘉藤 光歩	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太
	内川 宗大	嘉藤 光歩	小椋 翔太	前沢 浩司	大森 翔平
	小西 諒	山崎 瑞歩	—	栞尾 明	—
皮膚科	《交替制》	宮崎 健	《交替制》	大橋 理加	部長 辻岡 馨
整形外科	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之	副部長 田中 慶尚	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之
	副部長 田中 慶尚	小椋 隆宏	副部長 古川 剛	小椋 隆宏	副部長 古川 剛
	中田 旭彦	伊藤 貴之	伊藤 貴之	室谷 和弘	武本 直樹
歯科口腔外科	—	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕
	—	佐武 明日香	—	—	—
※放射線治療科	副部長 小倉 健吾	部長 根来 慶春	平岡 真寛(午前)	部長 根来 慶春	副部長 小倉 健吾
—	—	—	《交替制》(午後)	—	—
脳神経外科	《交替制》	副部長 武本 英樹	《交替制》	部長 津浦 光晴	—
	部長 津浦 光晴	—	—	《脳血管内治療専門外来》	—
※麻酔科	—	副部長 吉村 聖子	宮崎 里紗	—	副部長 片岩 真依子
呼吸器内科	主任部長 杉田 孝和	副部長 堀川 禎夫	河内 寛明	部長 池上 達義	副部長 寺下 聡
	—	《睡眠時無呼吸専門外来》	—	濱田 健太郎	—
心臓血管外科	部長 金光 尚樹	—	部長 金光 尚樹	—	—
	—	—	《静脈瘤外来》	—	—
※脳神経内科	部長 山下 博史	副部長 神辺 大輔	部長 山下 博史	平田 真也	副部長 神辺 大輔
	湯川 佳代子	成宮 悠爾(隔週)	大原 寛明(隔週)	木下 久徳	松本 瑞樹(隔週)
	山中 治郎(隔週)	岡 佑和(隔週)	河村 祐貴(隔週)	—	平山 典宏(隔週)
	安達 智美(隔週)	—	—	—	—
※精神科	部長 東 睦広	—	—	部長 東 睦広	—
形成外科	部長 奥村 慶之	—	中林 容	和田 詩織	中林 容
	《小児形成外科外来》	—	—	—	—
呼吸器外科	—	部長 石川 将史	副部長 福井 哲矢	—	部長 石川 将史
※心療内科	副部長 今泉 澄人	—	副部長 今泉 澄人	—	副部長 今泉 澄人
※リウマチ科	秋月 修治(第1・2・4・5)	岡本 翔太	船越 莊平	—	別役 翼(第1・3・5)
	中島 友也(第2・4)	—	納田 安啓	—	—
※漢方内科	—	—	部長 山田 伸	—	—
感染症内科	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》
※緩和ケア内科(午後)	部長 一宮 正人	吉村 聖子	筒井 一成	筒井 一成	今泉 澄人
※腫瘍内科	—	—	—	川上 尚人	—
※遺伝性腫瘍ユニット	—	—	副部長 豊福 彰(午後)	川上 尚人	—

赤字…女性医師 ※…完全予約制

はがんセンターユニット担当医師(がん診療以外も対応させていただきます。)